

弘道館と梅



(表紙写真提供：茨城県水戸土木事務所)

弘道館は、1841年(天保12年)8月、水戸藩第9代藩主徳川斉昭が、水戸城三の丸に創設した日本最大規模の藩校として知られています。

ペリー来航前から、水戸藩の海岸には外国船が出現するようになり、外国の脅威に対し危機感をもった斉昭は「日本の独立を守り、国や藩を発展させるためには、人を育てることが重要」として、弘道館の開校に尽力しました。当時の敷地面積は約10.5ha、学問と武芸の両方が重視された教育が行われ、多くの優秀な人材を輩出しました。

弘道館が建てられた翌年の1842年(天保13年)、斉昭は偕楽園を開園、弘道館での学習や武術の練習で疲れた心身を癒す場として位置づけました。

2015年(平成27年)4月、これらの施設は「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」の構成文化財として、栃木県足利市、大分県日田市、岡山県備前市の文化財とともに、文化庁から「日本遺産」認定を受けました。

現在、約3.4haの区域が「旧弘道館」として国の特別史跡に指定されています。春になると、敷地内は梅に対する斉昭の想いが刻まれた「種梅記碑」を彩るように、約60品種800本の梅の花が咲き誇り、梅の名所として偕楽園とともに多くの来訪客で賑わいます。

「水戸の梅まつり」期間中は、市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」が庭園内に常駐し、無料で案内を楽しむこともできます。

ご家族・ご友人とともに、弘道館が残した文化と春の先がけの香りを楽しんでみてはいかがでしょうか。



◆場 所：茨城県水戸市三の丸1-6-29

◆アクセス：

【車】常磐自動車道「水戸IC」から、約30分

【電車】JR常磐線「水戸駅」北口から、徒歩約8分

◆水戸の梅まつり

2019年2月16日(土)～3月31日(日)

場所：弘道館、偕楽園

筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ